

発電所の熱交換器向け

大型鍛造品を初受注

鑄型新設、一貫生産可能に

大和合金

銅合金の鑄鍛造メーカー大和合金（本社・東京都板橋区、社長・萩野茂雄氏）はこのほど、発電所用熱交換器向けの大型鍛造品を受注した。パイプをまとめる管板と呼ばれる部品の素材で、厚み約100ミ・直径約1200ミの円板。海水などによる腐食に強いネーバル黄銅を用いている。これまでも小型のものを手がけてきたが、大サイズ品の生産に向けて鑄型を製作。従来から約3割太いビレットの鑄造を可能にし、大型品の一貫生産体制を整えた。先週には大型ビレットの初鑄造が製造会社の三芳合金で行われた。写真。大手重電メーカー向けで上期中には納入する。



発電所向けの管板は、他の発電を強化するして2枚を受注しており、納期は1〜1.5原発の稼働停止を受け、動きが広がっている。

とから現在

需要が旺盛。納期対応が業界全体で課題となっていて

る。同社として、大型品を新たに製造する

ことで客先のニーズに対応する。大型品第1号と

炉と500キの重油炉

を同時に使用。溶解のタイミングを合わせる

など運用面での工夫も凝らしている。

自社ビレットを用いれば納期や品質管理面でメリットが出る。今後大型の鍛造品も一貫

製造で手がけることで、客先を拡大していきたい考え。現在管板は亜鉛と微量の錫を加え耐腐食性を高めたネーバル黄銅が中心だが、今後は銅ニッケル

など別の素材での展開も目指していく。萩野源次郎常務は「機械設備や航空宇宙分野でも大型鍛造品ができることは武器になる。納期などで困っている客先をサポートしていければ」と期待する。

製造で手がけること

で、客先を拡大して

いきたい考え。現在管

板は亜鉛と微量の錫を

加え耐腐食性を高めた

ネーバル黄銅が中心だ

が、今後は銅ニッケル

など別の素材での展開

も目指していく。萩野

源次郎常務は「機械設

備や航空宇宙分野でも

大型鍛造品ができるこ

とは武器になる。納期

などで困っている客先

をサポートしていけれ